

2021年3月24日

学校法人聖ヶ丘学園
聖ヶ丘教育福祉専門学校
2020年度教育課程編成委員会報告書

学校法人聖ヶ丘学園
聖ヶ丘教育福祉専門学校
教育課程編成委員会委員長
今村雅彦

2020年度、教育課程編成委員会を実施しましたので、下記の通り報告します。

1 委員総数 〈12名〉

| | |
|--------------------------|--------------|
| 横浜国立大学教育学部教授 | 園田 菜摘 |
| 横浜国立大学教育学部准教授 | 藤井 佳世 |
| 認定こども園山王台幼稚園・風の子こども園園長 | 田野岡 由紀子 |
| 学校法人新栄学園認定こども園金沢白百合幼稚園園長 | 鈴木 敦 |
| 聖ヶ丘教育福祉専門学校附属育和幼稚園園長 | 森谷 恭子 |
| にじの風保育園園長 | 山口 留美 |
| 聖ヶ丘教育福祉専門学校 | 校長 今村 雅彦 |
| ” | 副校長 渡辺 潤一 |
| ” | 事務長 渡邊 慶信 |
| ” | 教務部長 黒石 憲洋 |
| ” | 実習指導部長 蠣崎 尚美 |
| ” | 就職指導部長 亀田 良克 |

陪席者 〈2名〉

聖ヶ丘教育福祉専門学校 野戸智美 教務部員
” 竹前聡子 教務部主任

2 教育課程編成委員会開催日時

第1回 2020年 9月30日(水) 16時～17時30分

第2回 2020年 10月28日(水) 16時～17時30分

〈開催場所〉 聖ヶ丘教育福祉専門学校 2階 201室

3 委員会次第

第1回委員会次第

- (1) 学校長挨拶
- (2) 委員紹介
- (3) 2019年度教育課程編成委員会に係る措置状況について
- (4) 質疑応答
- (5) その他

第2回委員会次第

- (1) 学校長挨拶
- (2) 2019年度教育課程改善報告
- (3) 質疑応答
- (4) 2020年度教育課程編成についての提言
- (5) 次回議事内容及び日程等
- (6) その他

4 議事報告

2020年度教育課程編成委員回改善報告

(別添資料参照)

(別添資料)

2020 年度教育課程編成委員会改善報告

学校法人聖ヶ丘学園
聖ヶ丘教育福祉専門学校
教育課程編成委員会委員長
今村雅彦

| 項目 | 現在の状況報告 | 委員からの提言 | 今後の対応措置 |
|-------------------------|--|--|--|
| ①2019 年度からのカリキュラム改定について | <ul style="list-style-type: none">・2018 年度の教員養成機関としての再指定及び指定保育士養成施設としての変更申請に伴い、前年度より年次進行で新カリキュラムを適用している。今年度一部の新カリキュラムが完成し、二部は次年度完成となる。・今年度はオンラインによる同時双方向型授業展開の必要に迫られ、結果的に ICT 教育推進に至った。 | <ul style="list-style-type: none">・今後は LMS を始めとする授業支援システムを導入することが教育の幅を広げることになるのではないか。 | <ul style="list-style-type: none">・ Google Workspace (旧 G Suite) for Education の導入を検討しており、LMS として Classroom の機能を利用することを検討している。 |
| ②授業力向上への施策 | <ul style="list-style-type: none">・FD 委員会の立ち上げは先送りされている。・オンライン授業実施に伴い授業の相互参観が可能となった。・授業評価アンケートの回収方法をオンラインに変更して実施した。 | <ul style="list-style-type: none">・今年度得られた知の蓄積を基に学生指導の仕組みづくりを検討すると良いのではないか。・今後も学生の登校が担保されていないことから、メールを始めとする ICT 機器を活用し、円滑な授業運営をしていく必要があるのではないか。・次期 ICT 教育が普及した義務教育を経た学生が | <ul style="list-style-type: none">・コロナ対応のため先送りされていた FD 委員会の立ち上げについては、2021 年度以降に再始動する予定である。・学校からすべての学生および教職員にメール・アドレスを供与することを検討している。 |

| | | | |
|-------------|--|---|---|
| | | 進学してくる。環境の整備や授業のあり方を検討する必要があるのではないか。 | <ul style="list-style-type: none"> ・2021年度以降、シラバスの様式を変更する予定である。これに合わせてシラバスの実質化を図りたい。 |
| ③企業との連携について | <ul style="list-style-type: none"> ・本校独自の科目である「教育・保育実地研究」「保育実地研究」は開始時期や期間を変更して実施した。 | <ul style="list-style-type: none"> ・日誌記入に ICT 機器を利用してはいかがか。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ICT 機器を利用した日誌の記入については、(1)学生の ICT 機器の使用率、(2)学校の PC 配備状況、(3)実習先の受け入れ等を勘案すると、即時の全面的な移行は難しい。 ・ただし、保育記録にドキュメンテーションを取り入れている施設も増えてきていることから、可能な範囲で導入していきたい。 |
| ④その他 | <ul style="list-style-type: none"> ・一般教養科目である「情報機器の操作」においてプレゼンテーション・ソフトを扱うことを検討中である。 ・今年度は従来の就職活動支援ができず、改善が急 | <ul style="list-style-type: none"> ・保育現場では情報機器に強い職員を中心に保育を展開していることから、ICT 機器に長けた保育者を育てる必要性を感じる。 ・ICT 環境を整備し、情報発信を念頭に置いたカリキュラムを組み立てた上で学生指導を検討すると良いのではないか。 ・就職関係の資料を PDF 化し LMS 等を用いて就職 | <ul style="list-style-type: none"> ・2021年度から「情報機器の操作」は、担当者が変わり、情報発信を念頭においたリテラシー教育を取り入れたシラバスを考案していただいた。 ・2020年度においては、最新の求人票ならびに就 |

| | | | |
|--|--------------|---|--|
| | <p>務である。</p> | <p>活動を支援するシステムを確立すると良いのではないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職活動支援は教職員の過度な負担とならない範囲でモデルを構築すると良いのではないか。 ・次年度の授業形態については、教科の特性に応じて徐々に対面授業を実現させてはどうか。保護者には十分な説明が必要となるのではないか。 ・カウンセリングを利用する学生が増加傾向にある。今後も積極的かつ継続的な学生支援が求められるのではないか。 | <p>職説明会関係の資料はPDF化して学生へメール添付する形で就職活動の支援を行った。今後は、LMS導入を待って、学生の就職活動のサポートを幅広く展開していくことを検討している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2021年度は学生を全面的に登校させ、対面授業を実施する予定である。ただし、教室面積の問題から十分な社会的距離がとれないため、1クラスを2教室に分けて、一方の教室で対面授業をおこない、他方では配信をおこなうという形式を採用する予定である。 |
|--|--------------|---|--|

以上